

3 大和川を治める



大和川が今のすがたになるまでに、人びとはどのような努力やくふうをしてきたのか調べてみよう。



昔の地図には、今の大和川がないね。



今の大和川は、いつごろからあるのかな。



(1) 昔の大和川のようす



▲昔の大和川の川すじ（江戸時代のはじめのころ）

まりえさんは左のページの地図を見て、昔の大和川について調べてみました。

奈良ぼん地の水を集めて流れる大和川は、生駒山地と金剛山地の間を通過して大阪平野に流れ出ています。

大阪平野では、上町台地が南から北につき出ているため、東から流れてきた大和川は、南から流れてきた石川と合流してから北へ流れていきます。

そして、大和川は玉櫛川、久宝寺川などに分かれて流れ、大阪城の北で淀川に合流し、大阪わんに流れこんでいたことなどがわかりました。

しかし、川底に土やすななどがたまるため、大雨がふると大和川の川ぞいで水があふれてしまうことになり、洪水になることが多かったそうです。

そこで、まりえさんたちは、昔の大和川の洪水について調べてみました。

石
昔の体積（かさ）の単位で、おもに米をはかるときに使いました。1石は約180Lです。

くり返す大和川の洪水

年代(年)	できごと
七八五	河内の堤防三十か所が切れる
七八八	和気清麻呂のつけかえ工事
一五四四	七月、近畿地方に大洪水
一五六三	河内の国（今の大阪府）の約半分の水につかり、一万六千人が死ぬ
一六二〇	柏原村の堤防が切れ、約二万四千石の田がひ害
一六三三	柏原村、船橋村、国分村の堤防が切れる。民家五十軒が流され、三十六人が死ぬ。約二万石の田がひ害
一六三五	国分、船橋、弓削村の堤防が切れる
一六七四	堤防三十五か所が切れる
一六七五	堤防十九か所が切れる
一六七六	堤防十か所が切れる
一六八一	玉串川、菱江川の堤防が切れる
一六八五	新開池が土やすなでうまる

(2) 川ぞいの人びとの苦し^{くる}み



▲昔の洪水のようす (1868年の大和川の洪水をえがいた「洪水図説」より作成)

堤防^{ていぼう}が切れて、川の水があふれ出ると、どんなことがおこるでしょう。洪水^{こうずい}のようすを伝える絵を見ながら、話し合ってみましょう。

洪水がおこると、家がこわれ、食べるものがなくなったり、伝染病がはやったりもしました。

河内平野は水びたし 大和川の流^{なが}れがかわった

1674年6月(寅年)の大洪水で、河内平野のほとんどが水につかりました。35か所の堤防が切れ、大和川の流^{なが}れが変わってしまいました。それまでは法善寺^{ほうぜんじ}の二重堤^{にじゅうづつみ}で玉櫛川^{たまぐしがわ}(玉串川)の入口をせまくして、久宝寺川^{きゅうほうじがわ}に多く流れるようにしていた二重堤もこわれてしまいました。川が細く枝分かれし、大きな池につながる玉櫛川^{たまぐしがわ}の入口が広がってしまい、大和川の水がどっと流れこむようになりました。

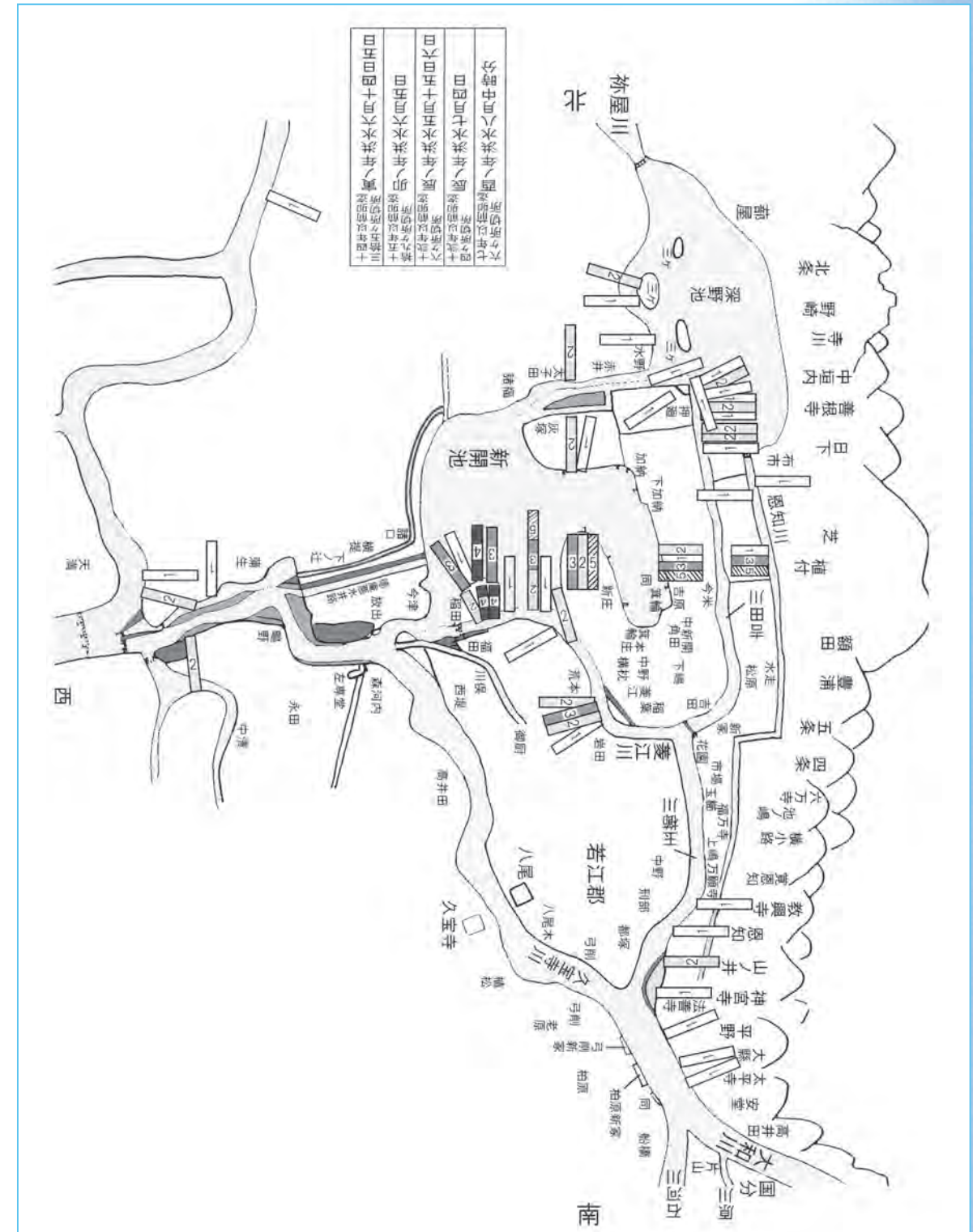


▲堤切所付箋^{つみきれどころふせんす}図 (中家文書^{なかけもんじよ}より)

1675年6月、1676年5月と7月にも大きな被害^{ひがい}が続きました。

左の図は、1687年に大和川つけかえを幕府^{ばくふ}にうったえた時に出されたもので、洪水でこわれた堤防^ふの場所に付箋^{ふせん}(はり紙)をつけています。同じ場

所に何枚も付箋^{まいふせん}(小さな紙のしるし)があり、9年の間に、何度も切れていることがわかります。



▲堤切所付箋^{つみきれどころふせんす}図 (八尾市立歴史民俗資料館^{やしろしりつれき民俗資料館}提供)

※①寅年1674年 ②卯年1675年 ③辰年1676年 ④酉年1681年 ⑤亥年1683年

(3) 大和川のつけかえ

今から350年ほど前、^{いまごめ}今米村（今の^{ひがしおおさか}東大阪市今米）の^{しゅうや}庄屋をしていた中^{じんべえ}甚兵衛という人が、なかまと力を合わせて、川ぞいの土地のようすを調べました。そして、洪水を防ぐには、大和川の水を石川との合流点から西の^{さかい}堺の方へ流すことがいちばんよいと考えて、^{ばくふ}幕府へ大和川のつけかえを願い出ました。

しかし、なかなか幕府のゆるしが出ませんでした。そして、幕府のなかでいろいろな意見が出て、つけかえる必要はないという意見に決まってしまいました。

しかし甚兵衛たちは、つけかえがだめなら、洪水による^{がい}ひ害がよくおこる^{ちいき}地域の^{みづはけ}水はけをよくするために、新しい水路をほってほしいということなどを幕府へ願い出ました。

庄屋

村をまとめる仕事をしてきた人。地方によっては名主ともいいます。

幕府

武士の頭である将軍が日本全体を治めていた役所。

幕府の考え

幕府は、大和川の川底を深くし、堤防を高くした方がよいと考え、土木の専門家だった河村瑞賢は「淀川と大和川の合流付近より下流の水はけをよくすれば、つけかえなくても解決する」と主張しました。

つけかえを願う人びとのうったえ

- これまで川の底を深くする工事を何度もしていただきましたが、すぐに底が浅くなってしまいます。
- 洪水になると、たまったどろがなかなかひかないので、生活にこまってしまいます。
- つけかえれば、洪水がへって作物が多くとれるし、川や池のあとに田畑がたくさんできます。 (一部)

つけかえに反対の人びとのうったえ

- 新しく川になる所は、多くの田畑を失ってしまいます。村が2つに分かれるところもでてきます。
- 新しい川の南側は洪水がこりやすくなり、反対に北側は水が足りなくなります。
- 川や池のあとには、作物がなかなか育つことができないので、田畑はできません。 (一部)

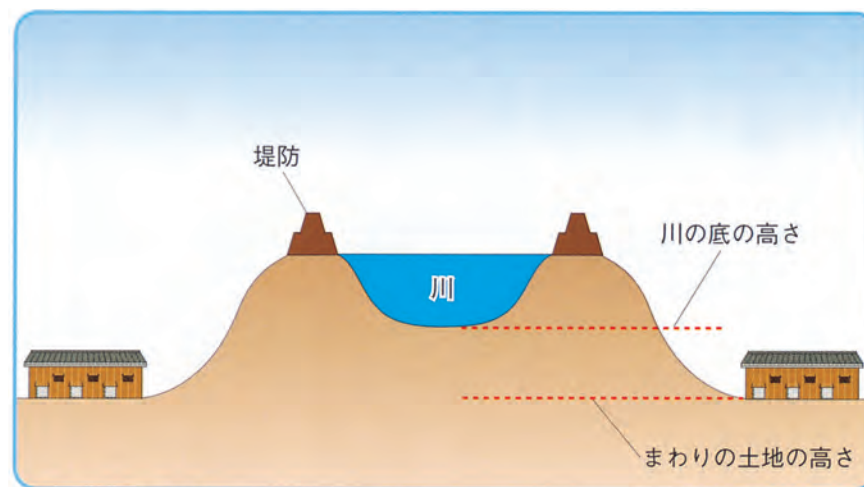
大和川は流れがゆるやかで、曲がりくねっていたために、川底にすながたまりやすく、それを取りのぞかないと、川はしだいに浅くなってしまいます。

江戸時代になり、開発がすすんで、山の木をたくさん切るようになると、大雨のときに上流から土やすなが流れてくるようになりました。

幕府は連結したじょうぶな堤防をつくって洪水にならないようにしましたが、ぎゃくに流れる場所が固定され、川の底に土砂がたまりやすくなりました。



▲まわりの家より高い土手と川 (大阪府柏原市)



▲天井川のしくみ

工事をくり返しても、いっこうに洪水のへるようすはみられず、それどころか、工事のあと、続けて大きな水害がおきたこともありました。

そこで、とうとう幕府は大和川を^{こうずい}つけかえることに決めました。甚兵衛たちが大和川のつけかえを願い出してから50年近くもたった、1703年のことでした。

どうして50年近くも願いがかなわなかったのかな。



藩

江戸（今の東京都）に幕府があり、日本を治めていたころ、将軍は地方を藩に分けて、自分の家来や大名に治めさせていました。

▼堤防の土は落堀川をほった土や、長吉付近からほり進んだときの土などを使いました。

(4) つけかえ工事のようす

つけかえ工事は1704年の2月27日から始められました。

工事はおよそ半分を幕府が行い、残りは幕府がいくつかの藩に命令して行わせました。工事の責任や費用は、幕府と藩が分たんしました。働く人びとの世話は、近くの村などでしていたそうです。



▲つけかえ工事(想像図) 八尾市立歴史民俗資料館提供。

数字でみる大和川の
つけかえ工事

工事の日数…225日
かかった費用
…約71503両
工事をした人数
…毎日約1万人
川の長さ…約14.3km
川のはば…約180m
堤防の高さ…約5m
※両…昔のお金の単位。
1両は今の約20万円。

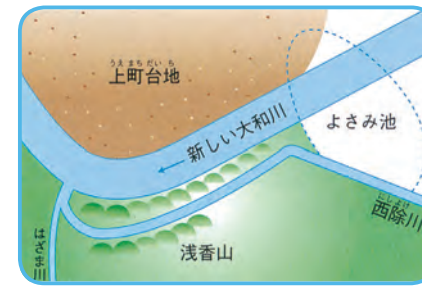


▲工事に使った道具

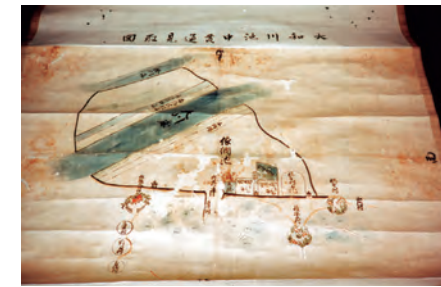
今から300年以上も昔のことですから、工事はすべて人の力で行われました。この工事は、始まった年の10月13日に終わりました。

(5) つけかえ工事の苦労やくふう

新しい大和川の半分以上は低い平地に流すため、工事は川底をほるのではなく、堤防（土手）をもり上げていくことがおもな仕事でした。土を長く積み上げてかため、じょうぶな堤防をつくっていきました。



▲浅香山付近のようす



▲大和川池中貫通見取図 (大依羅神社蔵)



◀新大和川大田村堤防付近図 (想像図)
大和川の堤防はその後も何回も土盛りされています。
八尾市立歴史民俗資料館提供。

しかし、残りの部分、とくに浅香山の付近は土地が高いため、ほっていかねばなりません。ほった土で「よさみ池」がうめたてられたといわれています。

なかじん べ え
中甚兵衛は私のせんぞ…中九兵衛さんのお話

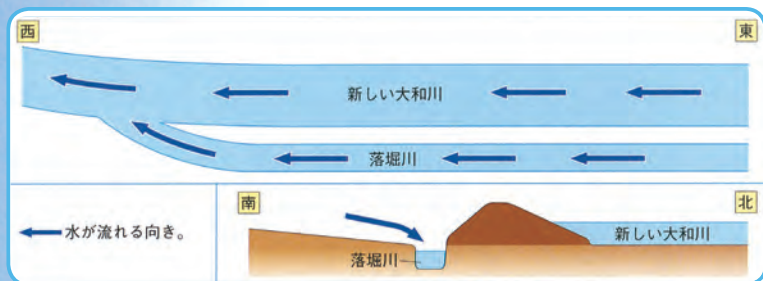
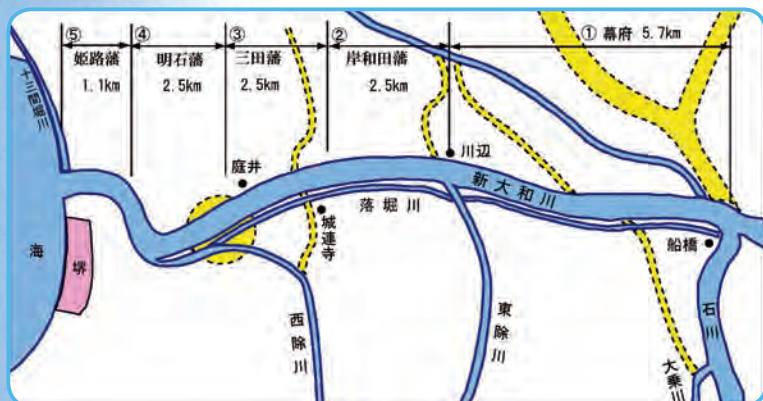


農民が幕府にお願いするのは命がけでした。甚兵衛は、勇気のあるしんぼう強い人だったのでしょう。「私は、中家に伝わる古文書なども読んで『大和川のつけかえ』について研究しています。子どもたちにもわかりやすく本にまとめています。参考にしてください。」

(『ジュニア版 甚兵衛と大和川』大和川市民ネットワーク発行)



▼中好幸「改流ノート」より（黄色は川や池のあと）（塚はピンクの部分だけだった）



▲落堀川のしくみ

新しい大和川は、南から流れてくる大乗川、東除川、西除川を横切るかたちでつけかえられました。これらの川の近くに住む人びとは、つけかえ前も毎年のように洪水になやまされていて、新しい大和川の高い堤防ができると、水はけがいっそう悪くなると心配しました。

また、東除川や西除川が、新しい大和川にうまく流れこめず、水があふれるおそれもありました。そこで、新しい大和川にそって約13.2kmの落堀川をつくり、南から流れてくる水をここに流しこみ、西の低くなったところで大和川に合流させました。また、大和川に流れこむ落堀川の水をなるべくへらすため、大乗川を今の羽曳野市の古市あたりで、石川に合流させました。



▲落堀川 右の土手は大和川の堤防

西除川も、大和川にそって西につけかえ、低い浅香で大和川に合流させました。

◇中家に伝わる古文書は、現在は「柏原市立歴史資料館」にあります。毎年、2学期に展示され、大阪府内の約100校の小学校が見学におとずれます。

(6) 大和川つけかえのあと

大和川のつけかえで、人びとのくらしはどう変わったのでしょうか。大きな川や池のあとを大商人などが新田として開発しました。また、米づくりにむかないすな地では、米づくりより手間はかかりますが、高く売れる綿作りがさかんになり、「河内木綿」という名で全国に売られました。

大和川のつけかえは、農民だけでなく、まちの人びとのくらしや大阪のまちの発てんにとっても、大きなできごとになりました。

しかし、元の大和川の川すじや元の東除川、西除川などの川すじでは、田畑に引く水が不足するようになり、人びとはたいへんな苦勞をしました。

一方で、新しい大和川の川すじでは、元にあった田畑が川の底となり、かわりの土地をひらく苦勞をした人びとがいました。村が川の両側に分かれたところもありました。また、水はけが悪くなった村や、川を大和川と合流させたところでは、大雨がふるとよく洪水がおこるなど、まだまだ解決しなければならないことも残りました。



▲わたの実



▲河内木綿でつくられたあつし（仕事着）
河内木綿は、せんいが太く、じょうぶで長持ちしたので、ゆかたやあつし、はた、酒しぼりのふくろなどに使われ、全国に名を知られるようになりました。

▼川あとにつくられた新田



※新田の多くは、大商人がつくりました。
※新田は、おもに久宝寺川、玉串川、深野池、新開池などのあとにつくられています。また、東除川、西除川、大乗川、よさみ池などのあとにもつくられています。

(7) 大和川がやってきた

新しい大和川の川すじでは、元の田畑が川底になり、かわりの土地をひらくために苦勞しました。村が川の両側に分かれたところもありました。水はけが悪くなった村や、川を大和川と合流させたところなどで、大雨がふると洪水がおこるなどの問題も起こりました。

大和川が運ぶ土や砂がたまり、この土地をひらいて、河口にも新田がつくられました。現在の大阪市住之江区や堺市の三寶地域は、大和川が運んだ土砂でうまれました。河口の新田では、高潮や塩害などに苦しみながら、砂地をいかした農業がさかんになりました。

堺と大和川

堺の港は、昔から大小の船が出入りするにぎやかな港でした。しかし、港も土砂でうまっていきました。そのため、大きな船が入れるように6回も港をつくりかえています。堺では、港づくりとともに、海辺ににぎやかなまちづくりがすすみました。

堺の港のうつりかわり

(「大阪春秋・堺のすべて」などをもとに作成)



1692年
(つけかえの前)

1707年ごろ
(つけかえから3年)

1885年ごろ
(つけかえから181年)

(8) 新田会所をたんけんしよう

もとの大和川が広げた新田

もとの大和川や池の開発には多くのお金や人手がかかるため、大商人たちが権利を買い取ってすすめました。

広く大きな新田会所が残されている鴻池新田は、新開池あとにひらかれました。1707年、121軒757人がひっこしてきて、新田での農業が始まったと記録されています。

新田会所は、新田の管理事務所で、小作料をとりたてて幕府に年貢をおさめました。新田の住人や橋・道・水路を管理し、もめごとの裁判もおこない、今の市役所と税務署・裁判所の仕事をしていたと言えそうです。

鴻池新田会所では、地域の資料や農具・生活用品なども展示され、会所のようなすをゆっくり見学できます。

(東大阪市鴻池元町
JR学研都市線鴻池新田駅から徒歩すぐ
☎ 06-6745-6409)



▲鴻池新田会所



▲鴻池新田会所の門



▲安中新田会所跡旧植田家住宅

川あとの八尾にもたくさんの
やすなかしん
 新田がひらかれました。安中新
でん
 田の記録によると、1708年の新
 田の作物は、ほとんど綿（綿）
きゆう
 だったそうです。旧植田家住宅
みんぐ
 が公開され、絵図や民具などが
 展示されています。

(八尾市植松町 JR八尾駅南200m ☎072-992-5311
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>)

新大和川が広げた新田



▲文久堺大絵図（1863年）
 の一部（白いところが新田）

新しい大和川は河口に土砂を運び続け、
としや
 陸地となりました。つけかえから20年後に
 新田開発が始まり、
たかしお
 高潮や作物への塩害な
 どのたたかい
 が続きました。
かがや
 加賀屋新田会
 所あとの公園で
でいえん
 建物や庭を見学できます。



▲加賀屋新田会所あとの庭園

(大阪市住之江区南加賀屋 地下鉄四ツ橋線住之
 江公園駅南900m ☎06-6683-8151
<http://www.city.osaka.lg.jp/suminoe/page/0000066283.html>)

◇「河内もめん」を育ててみませんか。

やおしりつれきしみんぞくしりょうかん
 「八尾市立歴史民俗資料館」には、河内木綿の棉畑
わたばたけ
 があります。5月はじめに種をまき、7月頃きれいな黄色の花が咲きます。8月～9月頃に白い棉の実
お
 がふき、そこから糸をつくり、布を織ったりできます。



博物館や図書館で調べよう!

- ◆大阪府立中央図書館(☎06-6745-0170(代))
 〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1
- ◆柏原市立歴史資料館(☎072-976-3430)
 〒582-0015 柏原市高井田1598-1(歴史資料館内)
- ◆大東市立歴史民俗資料館(☎072-876-7011)
 〒574-0015 大東市野崎三丁目6番1号
- ◆大阪府立狭山池博物館(☎072-367-8891)
 〒589-0007 大阪狭山市池尻中2丁目
- ◆八尾市立歴史民俗資料館(☎072-941-3601)
 〒581-0862 八尾市千塚3丁目180-1
- ◆東大阪市立郷土博物館
 〒579-8052 東大阪市上四条町18番12号
- ◆四條畷市立歴史民俗資料館(☎072-878-4558)
 〒575-0024 四條畷市塚脇町3-7
- ◆大阪歴史博物館(☎06-6946-5728)
 〒540-0008 大阪府中央区大手前4丁目1-32
- ◆松原市民ふるさとぴあプラザ(☎072-336-6800)
 〒580-0016 松原市上田7-11-19
- ◆堺市博物館(☎072-245-6201)
 〒590-0802 堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁目
- ◆奈良県立図書情報館(☎0742-34-2111)
 〒630-8135 奈良市大安寺西1丁目1000番地

